

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600377		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス池尻		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字池尻887-1		
自己評価作成日	平成27年6月5日	評価結果確定日	平成27年7月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が地域と協働して安心して穏やかに過ごせる施設を目指し、様々な取り組みを積極的に取り入れて利用者本位に行って参りました。とすれば利用者から学ぶ機会も多くあり、本当に未だ発展段階であると気づかされる場面もあります。忘れてはならない事は利用者は介護を一方的に受ける立場ではない事です。職員や関わりあいのある社会と共生することがこの事業の本来の役割であると認識し、日々発展していく努力を惜しみません。本年6月1日をもって2回目の指定更新を認可されました。今までのサービス提供に対し行政から一定の成果を認められたことと感謝しつつ、さらなる地域福祉への寄与を指令されたことと受け止め、新たな6年間に向けて、研鑽を誓うこと致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年目のいきいきハウス池尻は、入居者の重度化が進む中、理念の家庭的な楽しい雰囲気づくりやその人らしさの発揮の支援に努めている。管理者は、入居者同士の争いも生活の中ではありだと受け止め、折り合いがつくよう調整したり、入居者と家族とのパイプ役として関係継続を支援している。ミーティングで最優先課題を話し合い、現状に即した計画の作成やサービス提供が行われている。紙おむつで退院した入居者から紙おむつを外してほしいと依頼され、職員たちの細やかな支援で日中はトイレでの排泄が継続している。恒例の地元の小学生との交流や地域の敬老会の参加も継続し、仕事帰りに毎日来所される家族もあり、地域の方が将来お世話になるからと見学にみえるなど訪れる人も多い。地域の中で認知症や介護の相談所としての役割も期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名

いきいきハウス池尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	創業以来の運営理念を掲げ、毎朝呼称することにより、職員への周知を実現している。また、研修やミーティングの際には理念に沿った行動が取れているか、を確認している。	職員は理念の家庭的な楽しい雰囲気づくりに励み、入居者の楽しそうな笑顔に出会えるよう支援している。その人らしさを発揮して、自己主張し合って入居者同士がもめることもあるが、折り合いをつけて生活できるように支援するなど、理念の具現化に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政区や隣組との付き合いを生かして、自然に地域と交流できるように取り組んでいる。区の行事や会合には積極的に参加している。	地元の小学生との交流では、毎回事前に管理者が学校に出向いてホームの状況を説明したり、恒例となった地域の敬老会の参加は、重度化して参加できない入居者もあるが、入居者の演目が有り、毎年盛り上がっている。介護実習生の受け入れや地域ボランティアの来所も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の転倒防止教室では、役場の保健師の講義に合わせて、高齢者の体動の特性について事例を述べることもあり、今後も認知症の特性等の発表の機会を伺い参加したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出された意見について、目標を定め、サービス向上に生かす努力をしている。	自治会長、区長、民生委員、家族代表や行政の担当課職員、地域包括支援センター職員が参加し、町や自治会の行事や種々の情報の提供がある。	運営推進会議をさらに活用するために、会議録を目につきやすい場所に設置し、職員や参加がない家族とも内容の共有を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や相談が頻繁に行われており、行政からの要請や訪問も活発である。	町が主催する行事や催事のお知らせや席の確保の連絡がある。地域包括支援センターの職員が入居者の面談に来所したり、居室の空き情報や問い合わせなどで日頃から連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束も含めた介護周辺の知識が浅い職員が多いため、日々のサービス提供の折や座学にて理解を深める実践を行っている。	管理者は身体拘束の研修を行い、理解しやすいベッド柵等の身体拘束は、職員同士で注意し合うように理解を深める指導をしている。入居者に対する対応等で気になる点は、報告を受けた管理者が注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相互監視による報告を義務化し、密室介護にならないように細心の注意、情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修での習熟チェックを行い、権利擁護の気持ちが浸透するようにしている。	研修は実施しているが、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している入居者はいない。	多様な家族関係が想定されることから、日常生活自立支援事業と成年後見制度の内容やその違いについて学習し、入居契約時等に本人や家族に説明されるようお願いいたします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で伝達するだけでなく、文書化し手交するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問される際の要望を傾聴し、責任者に必ず伝達される。また、運営推進会議での要望は検討し報告している。	意見箱はあるが、家族や入居者と信頼関係を築くように努めているため、意見や要望を直接、管理者に伝える家族が多い。「私たちはプロに任せているのに。」との家族の言葉に、管理者はホームの取り組みを明確に家族に伝えていくことの大切さを再認識している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で出された意見を検討・反映させるほか、日々の気づきを吸収する工夫をしている。	職員の気付きや意見、提案を運営に反映するために、必ず申し送りノートに記入している。備品購入に関しては、購入用紙に記載して、管理者に渡すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	信賞必罰を明確にし、働き甲斐のある職場づくりを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は公平である。社会参加や自己実現の取り組みを今後充実させていきたい。	系列事業所からの異動や、ハローワークからの紹介で配置されている。人材育成のために法人内の異動が有り、グループホームで介護技術の向上を目的に異動する職員もある。管理者が指導を担当し、悩みも受け止めている。有給休暇や休日の希望が受け入れられている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修を通じて、人権尊重教育をし、サービス提供に反映できているか、介護の場面での実践状況の把握に努めている。	ミーティングを開催して、朝の挨拶の励行や入居者の人権に配慮する意識を啓発している。採用の際は、高齢者や認知症のある方の人権を尊重して接することができるかを重視している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験の就業者も多く、研修はマニュアルを作成して習熟度の応じた取り組みを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修会で知り合った施設や職員との交流が深化し、相互訪問や情報交換が行われている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して穏やかに過ごせる見通しが確立するまで、初期アセスメントを継続し、生活基盤作りを優先させている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを通じて適切におこなっている。特に言いにくいことがないか、投げかけを大切にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスの利用が第一優先である、という認識の下で、ニーズの確認を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協力しながら、支えあいながら、ともに暮らす、という雰囲気ができている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用開始当初から、協力を要請し、家族の関与を引き出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の支援を得て、本人の意思を尊重している。	仕事帰りに毎日来訪する家族もあり、調査当日も数組の家族が訪問するなど、訪問が日常化している。管理者は入居者と家族とのパイプ役として、家族からの電話に対応したり、下着1枚の希望でも家族に連絡を入れる等、関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独に陥らないように、共同レクリエーション作業を通じて、さりげない支援を継続している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先を折々訪問するなど、安否の確保に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通じて適切におこなっている。特に言いにくいことがないか、投げかけを大切にしている。	3ヶ月毎にアセスメントを実施し、生活歴や暮らし方の希望を把握するように努めている。日々の暮らしの中で、気付いた点は申し送りノートに記載して、情報を共有するように配慮している。	入居者の変化をより具体的に把握するために、既存のアセスメントシートに新たに把握した意向や気づきを加筆するなどの工夫を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前段階での情報の収集や、関係者からの聞き取りを通じて、本人本位に行われている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する心身状態や健康管理面の情報を適切に分析し、個々人に合わせた支援に繋げている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを適切に行い、モニタリングを通じて現状ニーズの把握を通じて、現状最適な計画を作成・実行している。	担当者会議で本人や家族の意向、身体状態の変化等に基づき計画を作成し、目標の達成度やサービス内容の評価を実施している。支援経過に目標の変更の理由が簡潔に記載され、ミーティングで最優先の課題を話し合い、現状に即した計画の作成やサービス提供が行われている。	職員たちの気づきやアイデアを活かした取組みをさらに推進し、全職員が介護計画を共有するために、定期的な職員会議の開催を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有・計画の見直しについては、職員間の連携がとれており、適切に行われている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	場合によっては、外部サービスの利用を検討したり、アイデアや業務改善により、柔軟に取り組む姿勢がある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や商店街等の催事の活用など、積極的に取り組みされている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、希望の医療機関への受診が行われている。	内科、歯科、マッサージなどの訪問診療等に対応している。原則家族同行の定期受診も、同行できない場合は相談に応じたり、緊急時は必ず同行して日頃の状況など報告している。受診結果は実績表にまとめられ適切に整理されている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の把握は、日々観察の中、カンファレンスの際、ともに情報の共有を行い、適切に医療機関に繋げている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けての取り組み、また、入院中のメンタルケアなど、豊富に取り組んでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時での希望を元に、状態変化時において、ご家族・本人の希望を踏まえた方針を示すことにしている。	重度や終末期の入居者も受け入れている。失明の危機だった方が病院からの紹介で入居され、安定した生活を送られたり、脳疾患で意識消失発作を繰り返し、先頃医師から今後について説明された入居者もあり、家族はホームでの看取りを希望している。	ホームでの看取りの希望もあるため、重度化や終末期の指針に沿ってホームでできることやできないことを、入居契約時や早い段階に説明をされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて、定期的に見定めを行い、適切に実践できるよう、準備している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政区の避難場所への誘導の際、住民の方への協力を要請している。	定期的に避難訓練を実施するとともに、地元消防団と連携して消火器等の機器や機材の確認に来ていただいている。	ホームの実情に合わせて、水・食料などの備蓄を行い、賞味期限など台帳管理されることをお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いによる軽口等を指導し、現在は人権教育の成果ができています。	トイレ誘導はそっと声かけしたり、失禁等には目につかないよう始末して、「次はきっと大丈夫ですよ」と声かけをしている。夫々ができることを精一杯頑張る入居者の姿に、職員達も人格を尊重した支援に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みの調査を行ったり、今日の食べたいものに合わせたメニュー変更等、柔軟に行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望の表出を見逃さず、さりげなく促すなど、希望を叶える努力を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択ができる場面が多くなっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の自発的な行動を尊重しながら、食事に対する関わりを持たせる支援を行っている。	地域の方や入居者の家族からいただいた野菜やお菓子の差し入れで食事やおやつが楽しみになっている。食材の買出しに一緒に出掛けたり、食事を作っている音や匂いで食事を楽しみに待ちながら、今回も調査員に「この食事はおいしいよ」と声をかける入居者もあった。食後は、食器拭き等の手伝いをお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立のバランス、摂取量の把握を通じて、随時に医師とも相談しながら行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣として、自発的にケアができています。歯科医の支援も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活支援の中の重要な活動と捉え、支援促進を積極的に行っている。	排泄はトイレで行うことを基本に、介護度の高い方も日中は布パンツで過ごす方が多い。医療機関を退院してきた入居者が、居室でそっと職員に、「紙おむつを外してほしい」と依頼している。失敗しても、次は大丈夫との声かけでトイレでの排泄が継続されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師との連携の中で、主体的に取り組んでいる。特に食物繊維摂取奨励、運動、水分の把握に努め、自然排便を促すよう取り組みしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のパターンは職員が決めているが、本人の意思を尊重することができるような柔軟さを持たせている。	週3回、男女別の曜日設定で、午前中から個別の入浴が支援されている。重度化した入居者も職員と一緒に浴槽に入り、入浴を楽しんでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠への過程で、安らぎを持たせる支援を行って、安眠が確保できるよう、取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳により、用法や副作用などは把握できている。医師との連携により、適切な支援ができています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の性格を活かした支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と相談しながら、行きたいところへの外出を実現している。	2代目の看板犬は、毎日入居者と散歩に出かけている。季節毎のお花見や道の駅、月に1度は外食にと、ドライブや買い物等で戸外に出かけ気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持することはないが、施設の買い物時などで、利用者が支払い、計算することは支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	折々の時候の挨拶等を、文通にて支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出せるよう、利用者と工夫して、行っている。	駐車場を兼ねた広い庭があり、隅の犬小屋の屋根に乗って看板犬が、来訪者を迎えている。玄関の左右に季節のひまわりやコスモスが植えられ、開花を楽しみにしている。食堂兼居間にはテーブルやソファが置かれ、入居者の写真や貼り絵、ぬり絵の作品が飾られている。トイレや洗面台が近くに設置されているが、臭い等に配慮されていて居心地よく過ごせている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カーテンや家具での仕切り、庭の四阿での会話の場面など、過ごし方を演出している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持ち込んでもらっており、居室の工夫はご家族とともに、行っている。	入居者の荷物がクローゼットに整理されている。自宅からダンスやテレビを持ち込んだり、職員のプレゼントの似顔絵を飾ったり、思い思いに過ごせるように設えている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は見守りに徹し、利用者の自立を支援している。		